★★★

ジュゴン　Vol.117
ちゃんぷるニュース

SDCC Save the Dugong Campaign Center　2021.　7. 20

CONTENTS

●2/3 情勢・絶滅論の委員の辞任を
●　　やんばるの森を真の世界遺産へ
●4/5 政府交渉報告
●　　各地の報告
●6/7 交流広場
●　　わんさか通信★ジュゴンのわ
●　　コラム－６・２３と月桃

沖縄戦戦没者の遺骨が眠る沖縄県南部の土砂を、辺野古埋め立てに使うことに反対する地方議会決議が、沖縄県外にも広がり始めた。金沢市議会、東京都小金井市議会、大阪府茨木市議会、吹田市議会、奈良県議会でも７月２日全会一致で可決された。アメリカ　ハリウッドの沖縄出身俳優ら 114 名も南部の土砂採取計画の中止を求める声明を発表した。

なぜ菅政権は、南部での土砂採取を行おうとするのか？全国の土砂採取予定地で「辺野古土砂搬出反対｜全国連絡協議会」に参加する市民の粘り強い反対運動があり、外来種問題で県外からの土砂搬入が困難だからだ。それだけではない。遺骨収集ボランティア（ガマフヤー）の具志堅隆松さんの著書「ぼくが遺骨を掘る人『ガマフヤー』になったわけ」によれば、発掘された遺骨の姿は凄惨な沖縄戦の実相そのものを示しているからだ。

「戦没者を二度殺す」菅政権を倒そう

家族が折り重なって手りゅう弾によって自決を強いられた姿。「蛸壺」（塹壕）から小銃を撃とうとして、鉄兜を一発で貫通され息絶えた日本兵。住民と軍隊が入り乱れた沖縄戦の実態などを、遺骨が語っている。この沖縄戦を二度と繰り返さないため、沖縄県民はその経験を語り継いできた。辺野古新基地を作り、先島諸島へ自衛隊を配備し、再び戦争の世をもたらす政府にあらがう力となってきた。

菅政権はその沖縄戦の実相の証拠を、戦没者の尊厳とともに抹殺しようとしている。その先にあるのは、中国を仮想敵国とする「第二の沖縄戦」である。自衛隊の「離島奪還計画」に住民の避難計画は一切示されていない。

「コロナ対策よりオリンピック」「人命より利権」「戦没者を二度殺す」菅政権を倒し、新基地建設を止めてジュゴンの生きる海を守ろう。　（関西　松島洋介）

[WEB] http://www.sdcc.jp/　[EMAIL] info@sdcc.jp

5/28 の政府交渉で、「沖縄ジュゴン絶滅」論を追及（４面）

新宿駅前で、じゅごん帽をかぶり遺骨が含まれた土砂の使用に抗議（４面）

情　勢　不承認を支える闘いで、委員３人の辞任を

（判事二人の反対意見は闘いの成果）

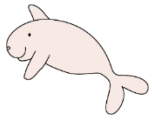
７月６日最高裁は、沖縄県の上告「国がサンゴ移植申請を許可しない沖縄県に是正指示したことは違法」を却下しました。しかし、５人の判事のうち２人が「軟弱区域の設計変更が拒否されれば工事全体の実現に支障が生じ、サンゴ移植は無駄になる」「変更申請承認の見通しを考慮する必要がある」と反対意見を述べました。玉城デニー知事は「画期的な反対意見が付された」（朝日新聞７月７日）と語っています。６月沖縄県の要望で全国知事会は、国が自治体の判断を直接否定できる「裁定的関与」の見直しを盛り込んだ提言を国に出しました。地方分権改革の徹底を求めているのです。辺野古の埋め立て土砂のめども立っていません。「遺骨などが眠る土」を辺野古の海に投入する計画に反対する決議が奈良県議会、金沢市議会など全国各地から上がっています。沖縄県は沖縄防衛局に４度にわたり設計変更申請内容を指導してきました。第５次質問がなければ７月中旬にも不承認すると思います。

（絶滅論主張する委員３人の辞任を）

今年 4 月末、沖縄防衛局の環境監視等委員 3 人（原武史、荒井修亮、茅根創）が英国科学雑誌「サイエンティフィック・レポート」に論文「沖縄本島付近のジュゴン個体群が 2019 年に絶滅」を投稿しました。「ジュゴンの保全措置を検討」している委員会議論の最中に、委員会で議論せず、事実に反する投稿は許されません。ジュゴンが絶滅したとする 19 年 3 月以降にも、環境監視等委員会はジュゴンの鳴き声を確認し、環境省、沖縄県は食み跡を発見しています（注）。このことを、5 月 28 日防衛省、環境省交渉で追及しました（参照 4 面）。6 月 1 日には伊波洋一参議員が外交防衛委員会で環境省を追及、「令和 2 年度ジュゴン広域調査結果」（環境省）をふまえて「ジュゴンは生息している」ことを確認。しかし、岸防衛大臣は「沖縄防衛局の調査と環境監視等委員会が検討すること」と責任逃れに終始しました。6 月 22 日、第 32 回環境監視等委員会では中村委員長は、「ジュゴン絶滅論文は個人の意見」と議題に上げず、「ジュゴンが大浦湾に来遊することを前提に環境保全措置を議論してきたし、今後も継続する」と絶滅論の委員３人をかばっています。県の不承認を支える闘いで、ジュゴン保護に背を向ける環境監視等委員３人を辞任させましょう。

（注）2019 年、20 年に本島付近の古宇利島・屋我地島付近でジュゴンの食み跡を確認。20 年、21 年には伊良部島、西表島でも食み跡を確認。環境監視等委員会は大浦湾で 19 年 33 回、20 年 204 回ジュゴンの鳴き声を確認。

五輪の中止を、国民の命守れ



首都圏では新型コロナ感染者数がリバウンドし、菅内閣は東京、沖縄に緊急事態宣言を出しました。有観客での五輪開催を「コロナに打ち勝った証し」とする思惑も、開催反対の世論（注１）で失敗（1 都 3 県で無観客開催）。「スポンサー招待客」参加の五輪開催にこだわったことで、五輪の商業主義を露呈しました。五輪参加の選手は１万５千人、大会関係者は６万７千人。すでに空港検疫でコロナ陽性者が見つかり、空港の検疫体制などに国民の不安は高まっています。

菅首相は「ワクチンは切り札」「１日１００万回接種」と、自衛隊を動員した大規模接種、大企業優先の職域接種を進めてきました。しかし、自治体へのワクチン配給を突如３割減、職域・大規模接種の新規予約中止を発表。ワクチン配給計画の混乱で、「現場は大混乱」と各自治体から批判の声が上がっています。

菅内閣は１０月初めの衆議院選挙に向けて、「６５歳以上の高齢者向け接種は７月末完了」、「１１月にはワクチン接種を完了」と臆面もなくいっていますが、めどすら立っていません。「感染者を拡大させるな」「オリンピックを中止せよ」の声をさらに上げましょう。

（注１）東京都民世論調査で五輪開催反対が５８%、賛成が３０%（毎日新聞６月２７日）。

（注２）パートナー企業は「ワールド」１４社（@数百億円）、「ゴールド」１５社（@百億円）、「オフィシャル」３２社（@６０億円）。オフィシャルサポーター２０社（@１０億円以上）

（事務局　蜷川義章）

やんばるの森を真の世界遺産へ／市民社会の取り組み

第44回世界遺産委員会会議が2021年7月16日から31日まで、中国、福建省の福州で開催される。この会議では、ユネスコの諮問機関であるIUCNの勧告を受けて、奄美大島、徳之島、西表島、そして沖縄島北部（やんばるの森）が世界自然遺産に登録される予定だ。

多くの人々が「やんばるの森を真の世界遺産に」と取り組んできたが、両手を上げての歓迎には至っていない。候補地に隣接する広大な米軍北部訓練場、そこで日夜繰り返される軍事訓練。候補地内「返還地」に残る米軍の廃棄物。廃棄物問題を訴えた宮城秋乃さんへの沖縄県警による家宅捜査。そして今回IUCN登録勧告で北部訓練場や「返還地」の問題への言及がなかった事実。「世界遺産登録が現状の追認につながる」という懸念が生まれているのは当然だ。

市民社会ができたこと

では、北部訓練場や返還地の問題は世界遺産登録の手続きのなかで全く無視されてきたのか。その答えはNOである。

それは2017年2月に環境省が提出した推薦書、その推薦書に対するIUCNの2018年「延期勧告」、それを受けて2019年1月に環境省が再提出した推薦書、夫々での北部訓練場や返還地の扱いを比べれば歴然としている。

例えば、2017年推薦書では殆ど記述のなかった北部訓練場の存在が、IUCNの延期勧告の中で大きく指摘され、2019年推薦書では明確に記載された。また2017年推薦書には米軍資料の掲載はなかったが、2019年推薦書では北部訓練場における絶滅危惧種の生息状況を示した「2014年自然資源・文化資源の統合管理計画」の一部が掲載された。さらにはブラックボックスと言われる日米合同委員会から、世界遺産登録に向けた日米政府の「協力合意文書」が出され、2019年推薦書に記載された。2019年推薦書は北部訓練場や返還地の問題に大枠では対応したともいえる。

この背景には市民社会の国際ネットワークを活かした取り組みがある。その象徴的な例が上記の統合管理計画の推薦書での記載だ。同計画は、米国での「ジュゴン訴訟」を通して入手され、SDCC等がそれをIUCNと環境省に示したことにより記載へと繋がっている。

IUCN登録勧告に向けての攻防

2019年推薦書を踏まえて、SDCCなどの市民社会グループと環境省は、やんばるの森の登録勧告をIUCNに求めることでは一致したが、その他の部分では大きな違いがあった。市民社会グループは、IUCN登録勧告において北部訓練場と返還地の問題とその解決の道筋へ言及させることを目指した。特に候補地と北部訓練場の境界線の問題、訓練の影響、廃棄物の問題に焦点を当てた。

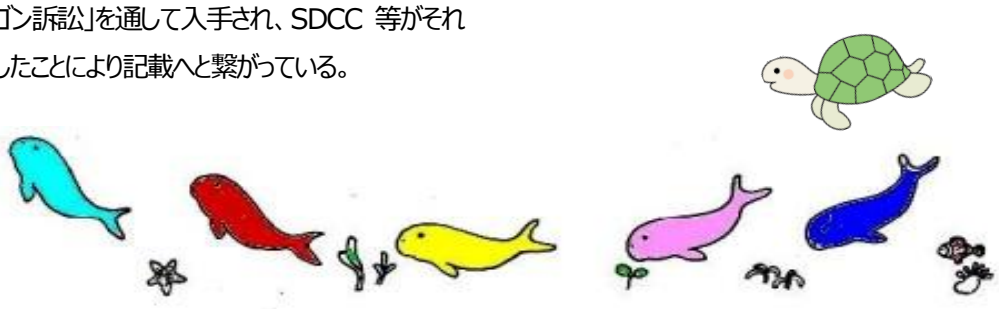
一方環境省は、2019年推薦書での対応で十分だとし、その後一貫して北部訓練場や返還地を問題であると言及することを避けてきた（これは環境省が辺野古新基地建設の環境問題に言及しない構図と重なる）。この矛盾は、防衛省が返還地の廃棄物除去作業を行っているにもかかわらず、それを公にしない環境省の態度に顕著に表れている。

結局去る5月のIUCNの遺産登録勧告では、北部訓練場や返還地を問題とする明確な記述はなかった。唯一の例外が「米軍のジャングル戦闘訓練センター（北部訓練場）の細長い一帯が沖縄島北部（候補地）に入り込んでいるが、候補地には含まれておらず、形状において変則的存在となっている」という境界に関わる記述だ。環境省、沖縄県、自治体が北部訓練場や返還地の問題に言及しない中、これがIUCNのギリギリの対応だったのかもしれない。

ユネスコへの働きかけ

現在SDCCをはじめとする市民社会グループは、7月のユネスコ世界遺産委員会会議に向けた取り組みを行っている。書簡を送り、ユネスコの遺産登録文書において、北部訓練場と返還地の問題とその解決の必要性に言及させることが目標だ。登録文書で言及されれば日米政府は対応に責任をもつことになる。言及されない場合でも、ユネスコに文書を提出した事実は市民社会の今後の取り組みで活用でき、それがまた大きな力になる。SDCCとしても「やんばるの森を真の世界遺産に」する取り組みを継続していきたい。

（国際担当　吉川秀樹）



5／28政府交渉～「沖縄ジュゴン絶滅」論を追及！

5月28日、参議院議員会館会議室にて、防衛省、環境省と交渉を行いました。当日は、「重要土地調査規制法案」を廃案に！ 強行採決を許さない緊急スタンディングが、国会前で行われている中での交渉でした。

交渉に先立って行われたミーティングに沖縄選出の伊波洋一議員、高良鉄美議員が参加し、交渉の成功に向けて追求のポイントを論議しました。交渉の当日、共同通信が「『沖縄のジュゴン絶滅』論文投稿　防衛省有識者会議の委員ら」を配信し、東京新聞などが掲載しました。この記事を元に交渉で追求しました。

防衛省交渉では、「ジュゴンの鳴き声の録音データを公開せよ」署名32440筆（オンライン（和文）29776筆、同（英文）1579筆、紙版1085筆）をまず提出しました。

そして、「ジュゴンの鳴き声の録音データをなぜ荒井氏（環境監視等委員でジュゴンの専門家）に聞かせなかったのか」「『沖縄のジュゴン絶滅』論文についての防衛省の見解を明らかに」と追求すると「個人の研究活動なのでお答えする立場ではない」「沖縄ジュゴンは絶滅危惧種と環境省が指定していると承知」と明確な回答を拒みました。

環境省交渉では、『沖縄のジュゴン絶滅』論文についての見解をただすと、「令和２年度ジュゴン広域調査（21 年4月）をふまえるとジュゴンは生息している」「査読中なので意見は差し控えたい」と言わざるを得ませんでした。また令和3年度のジュゴン広域調査については、「先島諸島を中心に」と沖縄島周辺での調査には消極的でした。

SDCC として、沖縄現地の闘いと国際連帯の取り組みを背景に、絶滅寸前の沖縄のジュゴンを守る取り組みを粘り強く進めていきます。　（首都圏　三村昭彦）

防衛省に「ジュゴン絶滅」論を問う

首都圏　重要土地規制法に抗う

政府は、3月26日に重要土地規制法案を閣議決定して、国会に提出しました。

首都圏では、いち早く一坪反戦地主会・関東ブロックを中心に、4月1日に官邸前で「重要土地規制法案の国会提出を許すな！」と、抗議集会を行いました。その後、伊波洋一議員を講師に学習会を開き、衆・参議院会館前、官邸前での行動に繋げ、抗議行動を展開しました。抗議集会には、いつも沖縄選出の議員が駆けつけて国会審議の報告など行っていました。

5月中旬から6月16日まで土日を除く毎日、抗議のスタンディングが続けられ、千葉在住のSDCC会員は、「日本政府は、沖縄に過重な負担を強いている。さらに追いつめるようなやり方に怒りを覚え、居ても立ってもいられず、今自分が出来ることをやらねば子や孫に申し訳ない」と、朝の8時から夜まで、連日抗議行動に参加しました。

衆議院内閣委員会で、杉田水脈議員はあからさまに、「この法案を辺野古の反対運動に適用せよ」と、発言。維新の足立議員は「基地の中の私有地を取り上げろ！」と、乱暴な発言をしています。

実質審議がわずか１２時間で、衆議院で強行採決、その後、参議院内閣委員会で審議が始まり、わずか3カ月足らずの6月１６日未明、多くの国民が内容をよく知らないうちに、あれよあれよという間に強行採決されてしまいました。悪法が数の力で成立されたのです。

首都圏では、「ナマカラドー！（今からだぞ）」と、今後も諦めることなく、声を挙げ続けます。　（首都圏　宮城韶子）

「ナマカラドー」（今からだぞ）

関西　「MAP 寺子屋」でジュゴンお話し会

富田林市にあるMAP Café では「MAP 寺子屋」という勉強会や講習会を定期的に開催されています。そこに呼ばれて、休憩を挟んで１時間半ほどジュゴンの生態から辺野古新基地建設についてお話をしてきました。

知った顔ぶれもあり最後の質疑応答では和気あいあいとした交流会になり、予定の時刻よりも大幅に延長してお話が尽きませんでした。

初めて沖縄のことに触れた方もあり、「こちらでは中々沖縄のことは報道されないので話が聞けてよかった」「私は沖縄出身だが知らなかった」など活発な意見が飛び交いました。

ジュゴンの生態についても初めて聞く方もいて「ジュゴンは何歳で大人になるの」また沖縄に関しては「辺野古に基地が出来たら普天間基地は返還されると聞いたが本当に返還されるのだろうか」など質問がでました。沢山の質問を受けて関心の高さを感じました。

途中の休憩時間には手作りの美味しいお菓子を頂きました！手作りだからと謙遜されていましたがプロ並みのお味でビックリしました。もちろん、美味しかったです！

富田林という場所は大阪でも南東に位置し、私にとっては遠かったので躊躇していましたが、お話して本当によかったと思える１日でした。　（関西　上田千鶴）

お話し会の様子。 Map Café は素敵な空間です

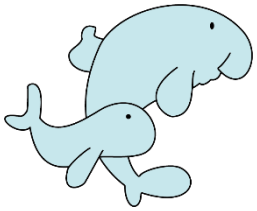
素晴らしい手作りスイーツ

気になるニュース！　宮古島に弾薬が搬入された

６月３日、朝日新聞ではほんの小さな記事でしたが、沖縄では「陸自、宮古島に弾薬搬入　保良訓練場詳細伏せたまま」（琉球新報）、「自衛隊、宮古島に弾薬を搬入　直前の連絡に市長残念で遺憾」（沖縄タイムス）と大きく報道されました。

地元住民が要請していた説明会は無いまま、２日夕方にとうとう保良訓練場（弾薬庫）に、阻止しようとする住民を排除して弾薬の搬入が強行されました。市長は「市民の安全確保」を理由に搬入日時やルートを公表するよう求めていましたが、連絡があったのは１時間前だといいます。また、情報がなく安全懸念と海運各社が輸送を拒否したので、輸送ヘリでの搬入でした。防衛省側は、今後、海上輸送も視野に地対空、地対艦ミサイルを含めた弾薬の搬入を加速させたい考えです。

何度も書きますが、弾薬庫から半径５００m内に２つの集落があるのです。弾薬庫と隣り合わせの日常は異常です。宮古島では「搬入されたから終わりではありません。運用を止め、撤回させ、安心・安全な暮らしを」と住民の取り組みは続けられています。南西諸島への自衛隊配備、ミサイル配備は、専守防衛を逸脱していると思います。多くの人が知らない間に軍事化が進んでいるのです。憲法９条をないがしろにし、軍事国家へと突き進んでいるのがわかります。歯止めをかけましょう。宮古島（だけ）の問題ではありません。全国的な動きにしていきましょう。　（関西　池側恵美子）



交流広場

大浦湾の海中で舞い泳ぐ牧瀬さんは、ジュゴンの化身と、評判になりました。踊り子、写真家、作家、画家、エッセイスト・・など、いろいろな顔を持つ牧瀬茜さん。官邸前では、スタンデイングの常連メンバー　。辺野古では座り込む。そんな茜さんが交流広場に登場！

海にかえろう

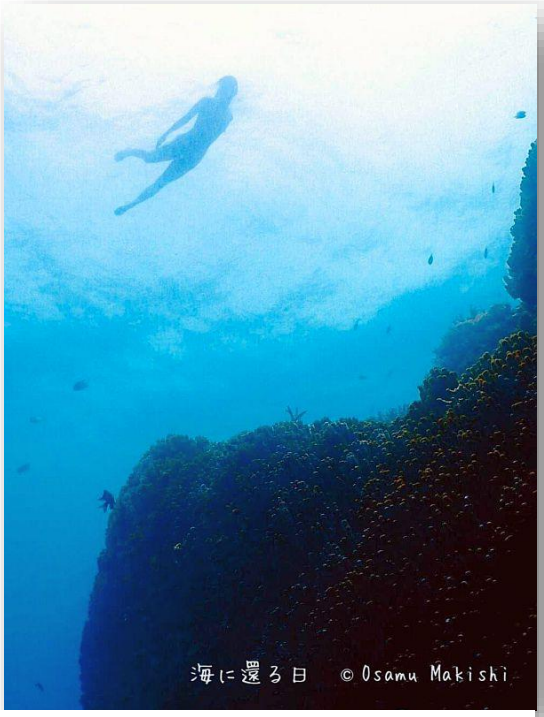
2017 年春、はじめて辺野古・大浦湾で抗議船に乗せてもらいました。護岸を作る投石が始まった頃です。ガラガラと大きな音をたててジュゴンの暮らす海が犯されていく光景と、それを共に見つめていた人々の怒りや悲しみに私は胸が潰れそうでした。

それから牧志治船長の案内で、ジュゴンがごはんを食べにきていた海草藻場、悠久のときを生きる大きなハマサンゴやアオサンゴの深い森、沢山の生きものが暮らすミドリイシの楽園を泳ぎました。カラダヒトツで生まれカラダヒトツでこの世を去る生きものたちの美しさ！あぁもし脱げるのなら人間を脱いで、ジュゴンのように海とひとつになって泳いでみたい……。

しかし日常に戻ると、自分が自然を壊しゆく側にズブリと浸かった生活をしている矛盾をひしひしと感じます。地球環境の悪化に歯止めをかけなければ未来はないというこの時に尚、お金や戦争の為に破壊し続ける人間、そして自分。申し訳ない気持ちに苛まれます。

強制的に移植されたサンゴのほとんどが命を繋げなかった。工事の騒音がジュゴンを追いやり、赤土で海草藻場を埋め、アジサシの営巣にくる島をネットで覆い、ウミガメのふるさとを奪った。それは暮らしていた人々を追いやって米軍基地が作られた沖縄の歴史に重なります。

赤土やコンクリートをすべて取り除いて、ジュゴンが安心して暮らせる辺野古・大浦湾に還したい……。それが、ジュゴンや地球への罪ほろぼしと恩返し、そして私の人生の希望です。　（東京在住　牧瀬茜）



大浦湾を泳ぐ牧瀬さん（写真提供：牧志治）

わんさか通信★ジュゴンのわ

共感力

沖縄戦から 76 年今年も慰霊の日がきた。去年に続きコロナの影響で 沖縄戦全戦没者追悼式典は縮小開催となった。仕事が休みではないので正午に糸満に向かって黙とうを捧げた。

休憩時間に TV を付けると「平和の詩」が生で見られる。児童生徒が時を超えて思いを広げ素直に読み上げる平和のメッセージだ。この真っすぐな詩を聞いて涙がでない年はない。

この詩の後が内閣総理大臣の挨拶となるのだが、安倍元首相の時代からお決まりのフレーズを使い、米軍基地が縮小していると自慢を挟みこちらの気持ちをしらけさせる。

3 年前、当時の県知事翁長雄志さんが（今思うと亡くなるひと月半前の事になる）炎天下の中、闘病中の痩せた体で登壇し、私たちの心配を吹き飛ばす力強い平和宣言をされた姿、メッセージは忘れられない。

（沖縄　小平裕美）

梅雨明け

6月23日「慰霊の日」と「月桃」の歌 ～こらむ・コラム～

1982年6月初旬、琉球放送TV報道部が本土復帰10年の6・23「慰霊の日」特番を企画。私は激戦地南部糸満市に点在する一家全滅した屋敷跡を訪ね、その家族について近隣に聞き出すレポーターを頼まれ歩いていた。そして、そのついでに、沖縄戦をイメージする「喜瀬武原」のような歌を作り、那覇市民会館で発表コンサートを開いて特番の目玉にしようとのスタッフの要望も受けていた。だがしかし、現地に入るや「戦世（いくさよ）の話しはならん」と断られ続け、取材は難航。それもそう、復帰10年だろうが何だろうが、沖縄を捨て石にし「生きて虜囚の辱めを受けず」の戦陣訓で玉砕を命じ、島民に甚大な犠牲を強いた国家に対する怨みつらみは消えた訳ではない。

取材を続ける中、ふと空き屋敷に咲く月桃の花が目に止まった。すると、その場で歌詞とメロディーが浮かび…それが「月桃」の歌の誕生となった。4番まではスムーズにいくも、問題は5番の「6月23日～」であった。沖縄守備隊第32軍の牛島満司令官が自決した日は22日と認識していたからだ。悩んだ挙句、「6月23日待たず月桃の花　散りました」と「待たず」を入れた。「喜瀬武原」とは真逆の明るい歌になったが、幸い人々に受け入れられ、学校の子供達も「慰霊の日」に向けて歌うようになった。だが、何故23日か？は疑問のままであった。調べると、復帰後に自決を目撃したという元高級参謀等の23日説により「慰霊の日」を23日にしたという。つまり、政府の圧力で歴史改竄が行われたということ。その後も歴史教科書沖縄戦記述改竄問題が執拗に起こり、県民の怒りが爆発。私は「月桃」を歌ってみんなを励まし、時折22日説が正しいことを大田昌秀さんや牛島司令官の孫の牛島貞満さんの証言を紹介し伝えたりもした。牛島家は22日を命日とし、牛島満の墓標には「6月22日」と記録。また部下達が摩文仁に立てた木柱にも「22日」が刻まれているという。それにしても、今年の「慰霊の日」は朝から大雨で、何処からともなく「月桃」が流れる悲しい一日であった。

海勢頭豊（うみせど　ゆたか：SDCC共同代表）

本の紹介

「Who Cares？ケアするのは誰か？　―　新しい民主主義のかたちへ」

ジョアン・C・トロント著　岡野八代訳・著　（発行：白澤社　発売：現代書館）

他者への配慮が薄れ、生きづらい世の中になっているのではないか。デジタル化やAI導入などで、ますます人と人のつながりが希薄になっていくのではないだろうか。誰の世話にもなっていないという人などいない、と思う。けれど、誰が世話をしてくれているのかを、多くの人は意識していないのではないだろうか。しかし、それらがこのコロナ禍で否応なく可視化されていると思う。コロナ後を考える中で「ケアするのは誰か？」と問うていくのはとても重要なことだと思う。この本でいうケアとは、単に育児や介護・看護だけではなく、より広い職種に及びます。そしてそれらは重要な活動なのに、一般に社会的価値（報酬）は低いのが現実です。

「ケアに満ちた民主主義は、グローバルな市場第一主義が席巻する現在の国際社会の中で、変革を求めるための原理である」「私たちはどこから民主主義を考え始めるべきか、どのようなテーマで人と語り合うことが民主的な政治の変革につながっていくのか。トロントの『ケアするのは誰か？』は、そうした問いに応えようとしている」と訳者は言う。

本書は米国のフェミニスト政治思想研究者のトロントがブラウン民主主義賞受賞時の講演録を訳出したものです。「ケアの倫理」という視点で社会や政治を問い直し、変革を促す書籍です。それは脱資本主義へとつながっていくようです。日々のくらしを維持し、継続させているものに価値を置く社会を。ともにケアし、支え合い、助け合う、優しい社会をと思う。

どうぞご一読を。

（関西　池側恵美子）

INFORMATION

《 今後のスケジュール 》

<首都圏・全国>
・2021ZENKO in Osaka 7月24日(土) 7月25(日)
SDCC分科会(第12分科会)は7/25 9:45開場
東京:大田区消費者生活センター
大阪:エルおおさか 会議室504
・設計変更不承認の際は、辺野古実行委員会の行動に参加

<関西>
・じゅごん茶話会 7月29日(木) 14時～ SDCC関西事務所
(感染状況によって中止の場合もあります)
・8月22日(日) Stop!辺野古新基地建設!大阪アクション
7周年集会 講師 具志堅隆松さん(ガマフヤー)
14:00～ PLP会館(環状線 天満下車7分)

ジュゴンのことを知る機会を増やしたい～大学・高校での授業報告～

6月8日、京都の龍谷大学政策学部の1～4年生対象の授業で講演をしました。緊急事態宣言中で、300人以上いる学生は、在宅でオンラインでした。ネットの接続が悪くなるので、学生は全員顔出しなしのビデオオフで、全く反応がわからず、とても残念でした。「辺野古の海に新たなジュゴンストーリーを」のリンクを紹介したので、ぜひ動画をみてほしいなと思っています。

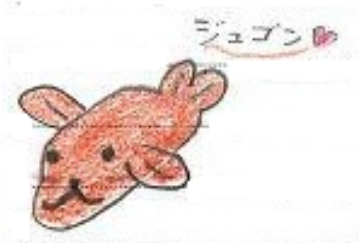
7月7日、大阪のYMCA高校の「戦争と環境」というテーマの授業で、沖縄の地上戦や基地の話、ジュゴンの話をしました。コロナ対策で少人数でしたが、みんな真剣に聞いてくれました。授業後に初めて聞く話ばかりで本当に聞けてよかった。自分にも何かできることはないかと思えたと言いに来てくれた生徒もいました。

辺野古の報道が少ない中、身近な人も含めて、日常では知る機会の少ない人たちに、沖縄のこと、ジュゴンのことをもっと伝えていきたいと思います。 (関西 正阿彌崇子)

「(ジュゴンと)一緒にいる私は善人に見えてしまう」

前号の交流広場で出前授業のことを書いてくださった工藤さんからうれしいメッセージが届きました。ジュゴンって、本当に色んな意味で、素晴らしい存在ですね。

今年も出前授業が始まりました。昨年同様、子どもたちがジュゴンに群がって来ます。「これなあに？」「かわいい！」「さわっていい？」「きもちいい！」「どこでかったの？」「わたしもほしい！」「じゅごん、じゅごん、じゅごん…」この人気者を「ともだちです」と紹介すると、一緒にいる私は善人に見えてしまうようで、つくづくおかげさまです。



2021ZENKO IN OSAKA
SDCC分科会のご案内

日時：7月25日(日) 9:45開場 10時開会
12時閉会
場所：エルおおさか 会議室504
(地下鉄谷町線、京阪天満橋駅下車 5分)
大田区消費者生活センター
プログラム
10:00 開会
海勢頭豊(SDCC共同代表) あいさつ (オンライン)
基調 設計変更不承認を支える運動を
休憩
質疑応答
「ジュゴンストーリー」映像上映
活動報告
12:00 閉会

辺野古の海に新たなジュゴンストーリーを
動画をアップしました！

皆さまから送っていただいた、写真・メッセージを動画にまとめました。いろんな場所で、いろんな形で、ジュゴンと辺野古の海を守ろうとする人たちがいることに、とても勇気づけられます。つながって声を大きくしていきましょう。ぜひ、YouTubeで動画をご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=1uMl_eskOzs

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.117 2021年7月20日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町２－２１
第１千代田ビル３０１ なかま共同事務所内 TEL/FAX 03-5228-1377
○ http://www.sdcc.jp/ ○ info@sdcc.jp
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号京橋ベース
(旧野口ビル) 302 TEL/FAX 06-6353-0514

会費(2000円)&カンパ振り込み先

郵便振替:
加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター
口座番号 00140－9－660199
他行、コンビニからは: ゆうちょ銀行 〇〇八支店
口座番号 普通 8159084